

医学を志す皆さんへ。



岐阜大学

GIFU UNIVERSITY

医学部医学科

医学部長からのメッセージ

岐阜大学大学院医学系研究科・医学部長

中島 茂



医師には知力、技能、体力、コミュニケーション能力など総合力が必要

近年の医学・医療の進歩は目覚ましく、日々新たな薬剤や医療機器が開発されて医療現場に届けられています。外科手術では小さな傷口から内視鏡やロボットを用いて行う低侵襲手術が開発され、これまでは大きな切開を加える手術でしか治療することの出来なかった心臓や脳血管の病気がカテーテル治療で治るようになりました。ヒトゲノムの全塩基配列が解読されたのは2004年ですが、今では個人のゲノム情報に基づいてゲノム治療(Precision Medicine)が行われる時代に突入しました。カルテの電子化はビッグデータの解析による予防や治療の進歩に貢献しています。ノーベル医学生理学賞を受賞された山中博士のiPS細胞は再生医療へと応用され、本庶博士の免疫チェックポイントの研究は新たながん治療法へと発展しました。医師は常に勉強して最新の知識や技術を習得しなければなりませんし、医学部で学ぶ知識の量も膨大になっています。このように急速に発展し変化していく中でも、「医は仁術」という医学・医療の本質は変わりません。ゲノム医療や再生医療に加えて、医療の世界に人工知能(AI)が導入され、先端科学技術が医学へと応用されるたびに、世間からは医師の倫理感や使命感が問われることとなります。医師には知識や技能に加えて、人と向き合うための信念、哲学が必要です。医師が標的とするのは病気ですが、患者さんは病気を持つ人であることを忘れてはなりません。岐阜大学医学部では学習と生活を通して、医学・医療の基礎を学ぶと共に、医師として成長するために必要な資質・人格を涵養していただきたいと思えます。

岐阜大学医学部医学科は、国内の医学部としてはいち早く20年以上前から能動的問題解決型テューリアル教育を導入し、1年生から医療体験をする初期体験実習、模擬患者ボランティアの協力による医療面接実習、診療参加型実習など医師としての知識、技能を身につけるための特色ある6年一貫カリキュラムにより先進的な医学教育を行っています。基礎・臨床医学系研究室配属による研究手法や研究発表法の習得、希望者による海外の病院での研修を含めた選択臨床実習など特色ある教育を実践しています。本学の医学教育は日本医学教育評価機構(JACME)による分野別認証評価でグローバルスタンダードに適合すると認定されています。岐阜大学医学部附属病院は、がん、エイズ、肝疾患、難病、災害医療の拠点、高度救命救急センターに指定されている特定機能病院ですが、医師育成推進センターが設置されており、医学部学生の臨床実習から卒業後初期臨床研修、専門医を目指す専門医研修までを一貫してサポートしています。本学では学生の部活動も活発で、医学部内で19の運動系サークル、14の文化系サークルが活動しています。また、本学は1958年から奥穂高岳夏山診療所を開設しており、社会貢献事業として夏山シーズンの約1ヶ月間、登山者の怪我や病気の診療にあつたっています。この活動は様々な団体から評価され、表彰も受けています。

医学・医療の進歩は日進月歩であり、医療に従事するためには生涯にわたり学習を継続する覚悟が必要です。治療を遂行するための技能も必要ですし、情熱を持って診療にあたるためには体力も大切です。悩める患者さんやその家族をサポートするためには、コミュニケーション能力や優しさと共に自己の心の安定性も必要です。私たち岐阜大学医学部は、医学を志す人を歓迎し、使命感、責任感、倫理観を持った医師を育成するための教育を真摯に行います。岐阜大学のキャッチフレーズはグローバルであり、岐阜大学医学部は岐阜県内のみならず、中部圏や日本全国、さらには世界でも活躍することのできる医師を育成し、国際的にも評価される独創的かつ先進的な医学系研究を進めていくことを使命としています。岐阜大学医学部で学んだ諸君が、発展し変化していく医学・医療の中で、明日の医学・医療に大きな夢を持ち、自らの力で新たな道を切り開き、地域と世界を舞台に活躍することを期待しています。

教育理念・教育目標

医学部医学科は、人間、自然、社会に対する豊かな感性と洞察力を持って教育・研究・臨床に邁進しています。その理念の下に医学の基礎と高度な専門知識・技能を有し、世界と地域の医療・医学の発展に貢献できる優れた医療人・医学研究者を育成することを最大の使命としています。

求める学生像

- 1 広い視野と豊かな教養を持ち、医学の修得に必要な基礎知識と学習スキルを持つ人。
- 2 自ら考えて積極的に行動し、その結果を省察できる人。
- 3 協調性に富み、相手の立場を尊重しつつ、自らの考えを表現できる人。
- 4 向上心を持ち、仲間とともに生涯にわたり学ぶ意欲と探究心を持つ人。
- 5 地域や国際社会で貢献する意志を持つ人。
- 6 責任感と倫理感が強く、人間性豊かで、生命に対する畏敬の念を持つ人。

疾病の予防と治療、そして健康の増進

医師は単に病気の修理屋さんではありません。人々が病気にかからずに生活できるようにするのも医師の役目です。また、不幸にも病気にかかった場合には、痛みをやわらげたり生命の維持をすることは言うまでもなく、その人をできるだけもとの状態に復帰できるようにアシストするのも大切な役目です。そのために、あらゆる分野でたゆみない研究が行われています。

医学を樹木にたとえてみましょう。すなわち、生物学・化学などの自然科学に根ざした人間生物学ともいえる基礎医学の研究があり、薬学・工学・農学などの最新技術を養分として吸収し、臨床医学・社会医学の枝葉を繁らせます。この枝葉が繁り重なってはじめて樹下の人々は有害な日差しや風雨、つまり病気などの災難から身を守られ、健康で幸せな日々が送れるでしょう。

人が病気を体験しますと、その人の心理状態は多少変化するでしょう。また、その人を取り巻く環境や社会、さらには文化も病気とは無縁ではありません。したがって、医師たるものは社会科学・人文科学の素養を身に付けておくことも重要です。

言い換えれば、医学は人の健康の増進や維持及び疾病の予防と治療を通じ、人類の幸福、繁栄に寄与することを目的とする学問といえます。



専攻	領域 (講座)	分野	
医	生命原理学	解剖学 生理学 分子病態学 神経生物学 薬理病態学 再生機能医学	
		生命秩序学	高次神経形態学 細胞情報学 形態機能病理学 法医学 生命機能分子設計学
	生命関係学	寄生虫学・感染学 病原体制御学 腫瘍病理学 疫学・予防医学 医学系倫理・社会医学 産業衛生学 医学教育学 医療経済学 システム生物学	
		内科学	消化器内科学 臨床腫瘍学 循環器内科学 呼吸器内科学 血液・感染症内科学 糖尿病・内分泌代謝内科学 膠原病・免疫内科学 腎臓内科学 総合診療科・総合内科学
			外科学
		学	脳神経科学
	感覚運動医学		整形外科学 リハビリテーション学 皮膚科学 形成外科学 眼科学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 口腔外科学
	生体管理医学		麻酔科・疼痛医学 泌尿器科学 救急・災害医学 放射線医学 臨床検査医学 臨床薬理学 臨床病理学
	生殖・発育医学		小児科学 産科婦人科学
	医療者教育学	医療者能力開発学	
医療者教育プログラム開発学			
医学系倫理・社会医学教育学			
総合病態内科学			
地域医療教育学 医師育成学			
全国共同利用拠点 医学教育開発研究センター			
地域医療医学センター			

医学部医学科における教育

6年一貫カリキュラム

1年

初年次セミナー

初期体験実習（学外施設）
 医学概論
 細胞生物学
 基礎生理学
 医学英語
 地域体験実習
 システムズバイオロジー基礎
 生命科学実習
 生化学

全学共通
 教育

初年次セミナー

入学直後に医学部医学科での教育の流れについてガイダンスを受けます。オリエンテーリングで教員や同級生との交流もはかります。



2年

テューリアル

人体構造学
 神経構造機能学
 生体機能学
 病原体学
 薬理・中毒学
 病理学

テューリアルコース(症例の提示)

テューリアルコースに入ると、毎週決まった曜日に各コースの症例提示があり、グループごとに問題点の抽出を行ったり、前回挙がった問題点について各自調べたことの発表や討論を行います。



テューリアル選択配属 (地域医療施設配属(選択))

テューリアルコース(講義・実習等)

症例提示で挙げた問題点は、自学自習で解決してゆきますが、その補助として関連した基礎医学的・臨床医学的知識を講義及び実習で学びます。各週末には自習成果をレポートにまとめ、各コースの終わりには確認試験を行います。



3年

循環器・呼吸器・泌尿路学
 消化器・検査・血液腫瘍学
 内分泌代謝学
 脳神経学
 成育学
 生命倫理・法医学
 臨床遺伝・臨床倫理
 皮膚科学
 免疫応答学
 運動器学

私たち学生は、能動的に自習するのが原則です



テューリアル選択コース(地域医療施設配属(選択))

希望する基礎医学・社会医学系分野等の研究室に配属され、医学系の実験・研究を教員の指導の下に行います。また、地域医療現場への実習を選択することもできます。



4年

感覚器医学
 麻酔疼痛制御・救急災害
 画像診断・放射線治療
 精神・行動学
 地域・産業保健学
 医師患者関係
 臨床実習入門・症候診断学
 臨床推論
 臨床実習資格総合判定試験(共用試験CBT・OSCE)
 ライフサイクル

Student Doctor 認定式

Student Doctor 認定式

臨床実習開始時までに必要な単位をすべて取得し、かつ共用試験CBT、OSCEに合格した学生には“Student Doctor”の称号が与えられ、医学部長、病院長からStudent Doctor 認定証が授与されます。



5年

臨床実習

見学型臨床実習
 医学部附属病院の各診療科・センター等
 消化器・血液・感染症内科
 循環器・呼吸器・腎臓内科
 糖尿病・内分泌・免疫・膠原病内科、皮膚科
 臨床検査、心臓血管・呼吸器・消化器外科
 消化器・乳腺甲状腺外科、麻酔科疼痛治療科
 小児科、成育医療・女性科、歯科・口腔外科
 脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科
 救急部・高次救命センター、総合内科
 脳神経内科、精神神経科
 泌尿器科・腎移植外科、放射線科
 臨床講義
 地域基幹病院、診療所における選択実習
 医学部附属病院内の選択実習
 海外臨床実習(希望者)
 診療参加型臨床実習後観的臨床能力試験(Post-CC OSCE)

臨床実習(クリニカル・クラークシップ型)

ベッドサイドで実際の症例を用いた学習をします。机上では得られない知識を習得します。医師としての職務と責任感をより一層深める場でもあります。



6年

卒業試験

卒業試験

臨床実習終了後、卒業試験に臨みます。卒業試験に合格したら、医師国家試験受験は目前です。



サークル活動

全学共通のサークルとは別に、医学部学生で独自にサークルを構成し運営しています。文化部では全国医系学生ゼミナール、運動部では西日本医科学生総合体育大会等に参加しています。6年間無理なく参加できるように柔軟な活動日程を組んでおりますが、複数のサークルに掛け持ちで参加する学生も少なくありません。現在登録されているサークルと活動の一端を紹介します。

文化部

- リーベ・パルツェ (軽音楽・ジャズ)
- カスタニユエラ (軽音楽・ポップス)
- きりんの会 (基本的臨床技能勉強会)
- 室内合奏団
- 奥穂高診療クラブ (国際医学生連盟岐阜)
- 箏曲
- 美術
- ピアノ
- ぎふ医療ケアサークル
- 囲碁
- GEMs (岐阜救急医療学生研究会)
- 料理
- GIFMSA (国際医学生連盟岐阜)
- アウトドア

運動部

- 卓球
- バレーボール
- バスケットボール
- 剣道
- 弓道
- 硬式テニス
- 軟式テニス
- 準硬式野球
- スキー
- バドミントン
- 山岳
- 水泳
- 陸上
- ラグビー
- ハンドボール
- ゴルフ
- サッカー
- ボート
- 馬術



卒業生の進路は…



キャンパスMAP



①医学部本館



②医学部教育・福利棟 ③医学図書館



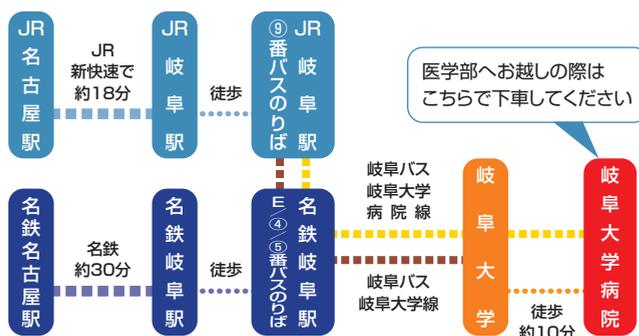
④医学部記念会館



⑤医学部附属病院

アクセスMAP

公共交通機関を利用した場合



お問い合わせ

〒501-1194 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学医学部 医学科学務係 TEL 058-230-6000 (代表)
<http://www.med.gifu-u.ac.jp/>

